

第十五回

秦野市

親子川柳大会

入選作品集

発刊に寄せて

令和六年度第十五回秦野市親子川柳大会は、過去最高となる千四百三十六作品の応募となり、コロナ禍前の令和元年度第十回大会が六六九作品の応募数だったことを考えますと、改めて各校の先生方の御協力、そして各家庭での御理解あつてのことと深く感謝申し上げます。

現在の秦野市教育振興基本計画では、目指す教育の姿として学校教育と社会教育の協働を掲げています。一口に協働と言っても具体的な取り組みが無ければ机上の空論になりますので、具体的には前田夕暮こども短歌大会ともにこの親子川柳大会は力を入れて取り組んできました。皆様も御承知のとおり、この親子川柳は二人で協力して作品を作ることによって、普段思っているとも言えない家族間の感謝の思いや、ふれあいの言葉を川柳でやり取りすることで、家族の心のつながりを深めることを目的としています。

子どもを取り巻く環境は、少子化、デジタル化、昨今の社会的背景によって大きく変化してきており、そのような中、親子川柳大会は学校、家庭が一体と

なつて実施する教育活動として大変意義のある事業であると考えてきました。今年度の応募作品も、大賞の「懐かしい祭りで出会って今や妻」と家族間の心温まる作品や、本市が力を入れているふるさと科の取り組みにつながるような「たばこ音頭 祖母が手ほどき ぼんおどり」が、さらに「おい娘！ 既読スルーはキズつくぞ」等のユーモアあるやり取りが巧みに表現された作品などこうした活動が、大事な人との絆づくりにつながっていると感じています。

また、今回は新たな取り組みとして、「お題」を設け、その中から選択する形式を導入しましたところ、秦野の魅力や将来の自分を表現したものなど、従来にはなかった作品も見られ、また新たな魅力も加わりました。

最後に、作品を応募していただいた皆さまの御活躍をお祈りするとともに、大会の開催に御尽力いただきました志水義夫実行委員長及び大会実行委員の皆さま、大会の周知や作品の受付に御協力いただきました小中学校の先生方、大会へ御後援いただいております各団体の皆さまに心から感謝を申し上げます、発刊のあいさつといたします。

作品講評

「川柳」は本来的に世相を描いて風刺をこめる作品です。世相に対する力ウンター（抵抗）精神が必要なのですが、市（カウンター）をくろうポジション）主催の川柳大会なので、そういう「毒」を感じさせる面白い作品——例えば宿題でこの川柳大会応募作品を作らされることへの困惑（迷惑？）を表現した作品。それらの作品は暴力性を持つ「カウンター」というよりは現状への「単なるボヤキ」だったので落選しています——にはなかなか出会えません。世相を描いていても風刺ほどの皮肉はなく、人生の一コマを親—子の世代間落差で描いて共感呼び込んでいます。

今回の大賞のように、子のすなおな思いに親が自分を重ねて感慨にふける姿、祖母から孫に継がれてゆく思い、あるいは父と娘とのある一時期だからこそ生まれるすれちがい、どれも日常の視界の中で人生を感じさせるものごとを世代間落差で描いているというところでしょうか。特別賞の各入選作は

ボケとツツコミのようなやりとりの面白さが目立つもので、川柳はもと
前句付け（へ五―七―五・七―七）の（七―七）を題として示し前の（五―七
―五）の句を募集して選評するイベント）から生まれてきたのですが、予測
の斜め上を行くりアクションの面白さがポイントとなります。その投げかけ
と答えが日常生活の上に展開されているところが味わいです。風刺ほど毒性
がつよいのではなくちよつとしたスパイス程度の味のある作品。これがいま
どきの、秦野の、「川柳」の姿なのでしょう。

実行委員長兼審査委員長 志水 義夫

入

賞

親子川柳大賞（市長賞）

（子） 好きな子と 行けて楽しい 夏まつり

（父） 懐かしい 祭りで出会って 今や妻

広畑小学校三年 鈴木 華菜 父 尚巳



ハートフル大賞（議長賞）

（孫） たばこ音頭 祖母が手ほどき ぼんおどり

（祖母） 葉たばこの 昔がたりし 孫と舞ふ

堀川小学校六年 飯田 成美 祖母 石黒 博子



ベストファミリー大賞（教育長賞）

（父） おい娘!! 既読スルーは キズつくぞ…

（子） れんらくが ひんぱんすぎて うざすぎる



堀川小学校六年 石野 栞花 父 頼久

特別賞 秦野商工会議所賞

(子) いのししや しかもいるんだ ぼくのまち

(母) このお肉 鹿肉だとは 言い出せず

北小学校三年 福本 将弘 母 順子



特別賞 秦野市農業協同組合賞

(子) 朝ごはん セルフサービス うちだけだ

(母) 失礼な 自立につなげる 教育よ



南小学校六年 村田 愛夢 母 佳奈

特別賞 秦野ロータリークラブ賞



(子) いざ参る 推しに会うため 仙台へ

(母) アイドルと 思えばまさかの 政宗公



大根中学校一年 藤森 夏帆 母 織衣

特別賞 秦野ライオンズクラブ賞



(父) またアイス 暑いからって 食べ過ぎだ

(子) またビール 暑いからって 飲みすぎじゃん



南小学校五年 増田 琴乃 父 雄一

特別賞 秦野丹沢ライオンズクラブ賞

(子) かえったよ じいじばあばと 遊びたい

(母) 遺影ある 仏壇前で ボール遊び



鶴巻小学校四年 佐藤 遼芽 母 美幸

特別賞 秦野名水ロータリークラブ賞

(子) 暑い外 出たくはないよ このおへや

(母) 暑い外!? なら片付けて この汚部屋おべや



南小学校四年 高橋 真祐 母 香織

特別賞 秦野あづまライオンズクラブ賞

(母) 雷で 洗濯干せず 一休み

(子) 母休む 天気理由に ゴロゴロと

北中学校三年 西田 力和 母 亜美



特別賞 秦野市PTA連絡協議会長賞

(母) タブレット さわってばかりで 宿題は？

(子) 画面見せ これが宿題 ドヤ顔だ



末広小学校四年 加藤 匠 母 亜樹



佳

作

(子) とつてきた!! セミのぬけがら 三十こ!!

(母) ここにもね 母の抜け殻 夏疲れ

南小学校二年 二見航生 母 美帆子

(子) お父さん 大好きな人 見つけたよ

(父) まだ早い 夢の中だと 願いたい

南小学校五年 長谷川結恵 父 耕平

(子) 十年後 いっしょにのもうね お酒とか

(母) 呑み語り 成長したな おごりで頼む

南小学校五年 杉本菜胡 母 真理

(母) 夏休み 家でゴロゴロ 外へいけ

(子) 夏休み 家でゴロゴロ これでよし

南小学校五年 新井次郎丸 母 愛子

(子) あと一回 次こそ「推し」を 当ててやる

(母) 「推し」出ない 気づけば親が もう一回

南小学校五年 浜野彩希 母 京子

(子) つかまえた アカハライモリ かえるの子

(母) 帰しましょ 碧深い森 いつかまた

南小学校五年 小野塚壮志 母 澄江

(孫) 秦野はね 自然ゆたかな 鳥の町

(祖母) 西に富士 北に丹沢 見て育つ

南小学校六年 兜愛梨 祖母 茂斗子

(子) バスケット ゴールの下で リバウンド

(父) バスケット 酒とつまみで リバウンド

南小学校六年 岩城稜 父 隆平

(母) 明日やる 明日になっても 明日やる

(子) 気づいてる？ 明日は学校 始業式

北小学校五年 大木琥太郎 母 和恵

(母) 夏休み お母さんにも くださいな

(子) いいですよ ぼくのかだいも あげますよ

北小学校五年 平井育和 母 明子

(母) 関東で ゆいいつぼん地 秦野だよ

(子) そうなのか どうりで暑い 秦野だよ

北小学校五年 中静昂 母 祐子

(子) 夏の夜 怖い話を しませんか？

(母) 電気代？ それとも物価の 話かな

北小学校五年 安藤侑里 母 理香

(子) なぜいつも わたしにつづき かぜひくの？

(父) 分からない？ あなたが呼ぶの パパばかり!!

大根小学校三年 岩本明莉 父 拓

(子) 温泉に 浮かれてすべって 尻イタタ：

(父) 海鮮に 浮かれて食べすぎ 腹イタタ：

西小学校五年 平井峻 父 真之

(母) 海へ行く 服を着なくちや 日に焼ける

(子) 水着でしょ！ なんでママ海で 服着るの？

上小学校一年 府川帆花 母 美登里

(子) あまみでね あかまたみたよ かつこいい

(母) 男前 子供を守る 母がいた

上小学校一年 右田一晴 母 衣里

(母) これお願い！ 母の味方の お姉ちゃん

(子) ごほうびを まっていますよ お母さん

上小学校五年 森谷茉楠 母 紗都

(子) どうしよう せんりゆう思い つかないよ

(父) どうしよう こんだて思い つかないよ

上小学校六年 石原あおい 父 拓郎

(母) 我が家での 風物詩とは 川柳ね

(子) またやるの 毎年悩む 夏休み

広畑小学校六年 本間瑚啓 母 摩記

(母) かみなりが 近づいてきたね 夏の午後

(子) 僕にはね ママのかみなり 一年中

渋沢小学校六年 新國根央 母 咲耶

(子) せみの声 まだおきないよ 日がさめる

(母) 夏の音 母の代わりの 目覚ましだ

渋沢小学校三年 松野鈴菜 母 聡美

(子) ゲーム時間 パパはどうして せいげんなし？

(父) なぜバレた 家族寝た後 ゲーム時間

末広小学校三年 横溝龍河 父 芳人

(母) はいそうじ そこのスペース かたづけて！

(子) なんで今？ 自分のペースで やりたいの

末広小学校三年 井川二弥 母 奈美

(子) 発表会 バレエのメイク 素敵でしょ？

(母) アイライン つけま付けたら あなた誰？

末広小学校三年 三嶽一花 母 愛子

(子) 見つけたぞ とくだいサイズの モクズガニ

(母) でかしたぞ 今夜のみそ汁 決まったな

末広小学校三年 山重千景 母 玲子

(子) 怪談を 聞いてこわくて ねむれない

(父) 飲みすぎて ママが怖くて 眠れない

末広小学校五年 大城青澄 父 吉孝

(父) いい加減 やめたらどうだい ゲームをさ

(子) 分かったよ ビールと同じ あとちよつと

末広小学校五年 西山幸誕 父 豪裕

(子) 足つくか 不安がよぎる プール際

(父) 胸までの 水に笑顔の 君がいた

末広小学校五年 横溝怜士 父 芳人

(子) 母がのむ お酒の味を 知りたいな

(母) 10年後 息子と呑む酒 お楽しみ

末広小学校五年 佐藤翔 母 愛子

(子) 得意料理 毎日作るぞ ハンバーグ

(母) 褒めたけど さすがに飽きるよ ハンバーグ

末広小学校五年 堀内海晴 母 文子

(子) がんばりが むくわれない 親子川柳

(母) 頑張りは 君の未来の 糧となる

末広小学校五年 磯部未帆 母 佑里子

(母) 早く寝て みんなが寝たら イヒヒヒヒ

(子) なつやすみ ぼくもいつしよに イヒヒヒヒ

末広小学校六年 大嶋岳人 母 知枝

(父) あっちの湯 こっちの湯へと 父アがる

(子) まったくもう 大人になれよと 風呂あがる

南が丘小学校三年 高橋美琴 父 亮

(子) 涙ぐむ 明日はついに 始業式

(父) 待ちわびた 明日はついに 始業式

鶴巻小学校一年 石川圭 父 直人

(母) 思春期や ああ思春期や 思春期や

(子) 更年期 負けるなJC ここにあり

東中学校二年 篠原永菜 母 杏里

(母) 真っ黒に 焼けた肌が コーヒー豆

(子) これ以上 黒くなったら 黒豆だ

大根中学校一年 黒山遥斗 母 紗央里

第十五回秦野市親子川柳大会

☆事業概要

募集期間 一次募集 令和六年五月一日～六月二八日

二次募集 令和六年七月一九日～九月二日

対象者 市内在住・在学の小・中学生とその家族

表彰式 令和六年十二月十四日（土）午後三時四〇分

秦野市保健福祉センター三階 多目的ホール

☆応募結果

応募総数 一四三六点

小学生 一二八〇点 中学生 一五六点

☆掲載作品

入選四七点（入賞一点・佳作三六点）

小学生入賞九点・佳作三四点

中学生入賞二点・佳作二点

☆秦野市親子川柳大会実行委員会

委員長 志水 義夫（東海大学文学部教授）

副委員長 吉原 揚子（社会教育委員）

委員 小泉 道生（社会教育委員）

委員 山田 美穂（秦野市立堀川小学校校長）

委員 山田 浩之（秦野市立本町中学校校長）

委員 橋爪 梨絵（秦野市PTA連絡協議会委員）

委員 山本 啓子（秦野市PTA連絡協議会委員）

☆共催

秦野市PTA連絡協議会

☆後援団体

秦野商工会議所

秦野市農業協同組合

秦野ロータリークラブ

秦野ライオンズクラブ

秦野丹沢ライオンズクラブ

秦野名水ロータリークラブ

秦野あづまライオンズクラブ

※敬称略、順不同

第十五回秦野市親子川柳大会入選作品集

発行

令和六年十二月十四日

秦野市文化スポーツ部生涯学習課

秦野市桜町一―三―二

電話 〇四六三―八四―二七九二

